

安心と笑顔のために

日本共産党札幌市議団ニュース

No. 350 2023年12月11日

日本共産党札幌市議団 事務局 TEL 211-3221 / fax 218-5124

生物多様性を守るため パンフレットの周知と活用を

12月07日 総務委員会 田中啓介委員

「生物多様性さっぽろビジョンの改定」について田中市議が質問に立ちました。

田中市議は最初に「札幌市版レッドリストというのはどのような位置づけか、札幌市版レッドリストの見直しと、掲載種の保全事業の検討・実施とあるが、どのように行われるのか」と質問。西村一郎部長は「札幌市版のリストは、市民・事業者等に札幌市における絶滅の恐れのある動植物の現状を広く公表し、生物多様性の保全に対する意識の醸成を図ることを目的として2016年に策定。改定については、動植物の生息状況等の最新の情報を収集整理し、専門家による検討会での検討を経て2026年を目途に改定を予定」と答弁しました。重ねて田中市議は「ハンドブックの配布状況、学校の授業で活用されたのか、どのように把握しているのか」と質問。西村部長は「3000部印刷しており、市役所・各区役所・各区民センターで配布したほか、市民の市内の全小学校へ各5部ずつ配布し、必要などころへは追加の配布。学校からのリアクションについては追加で配布している」と答弁。追加注文への対応に留まるのではなく、「広く見て読んでもらう活用方法を改めて検討していただきたい。これがこの方針で、ビジョンで掲げているその生物多様性の保全の活動に参加、取り組んでいる市民の割合を増やしていく、これを繋がっていく」との質問に、西村部長は「今後、新たな改訂版について、そのような観点も踏まえながら周知してまいりたい」との答弁に留まりました。

最後に田中市議は、小さな変化が生態系を崩す可能性があるとは指摘し、「専門家や科学的知見を基にした積極的な取り組みを」と要望しました。

将来見据え市営住宅もみじ台団地 整備を

12月07日 総務委員会 田中啓介委員

「もみじ台地域まちづくり指針（案）」が審議され、田中市議が「まち作りを進めていくにあたっては、当事者である地域住民の声をしっかりと聞いていくことが大切。ニュースレターとかを配布して周知、説明会の開会では一方的なやりとりになる。双方間でしっかりとお互いの意見が反映できるように、まち作りを進めていただきたい」と指摘しました。

最初に田中市議は「もみじ台団地は周辺に商業施設などがあり、人口増加の可能性がある。エレベーター設置やバリアフリー整備等によって、入居者が増えることも想定される。市営住宅は減らさずに検討することが必要。だが管理戸数検討とは具体的にどうか」と質問。長谷川豊部長は「更新では、対応年限も考慮しながら段階的に進めていく。また、まち作りと連携した集約、建て替えによる再整備を進め、市全体の市営住宅の方向性を踏まえ、検討する土地利用再編方針とあわせて整理をしたい」と方針に変更がないと答弁しました。

次に田中市議は「この地域、人口が増える可能性がある。小・中学校等の市有施設、敷地、安易に売却すべきではないと思うがいかがか」と質問。長谷川部長は「小中学校については、統合し、地域の中心部での義務教育学校の設置に向け検討調整を行う」と答弁し、敷地については、「今後の土地利用再編方針に向けた検討を踏まえ、地域の意向も確認しながら検討を進めていきたい」と統廃合は変更しないとの考えです。

最後に田中市議は「札幌市内では人口が増えて、公共施設が足りない所もある。人口が増えてからでは遅い。柔軟に対応できるようにまち作りを進めて頂きたい」と強く要望しました。